

# 令和2年度 第1回 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会

## 議事録（速報）

1. 開催日時：令和2年12月8日（火）14：00～16：00
2. 場 所：那覇第2地方合同庁舎2号館 沖縄総合事務局 2階 災害対策室
3. 出席者：
  - 委員  
照屋 保 沖縄経済同友会常任幹事（りゅうぎん総合研究所社長）  
大城 郁寛 琉球大学 名誉教授  
神谷 大介 琉球大学工学部准教授  
堤 純一郎 琉球大学 名誉教授【委員長】
  - 沖縄総合事務局  
岩田次長、中島開発建設部長、和田企画調整官、石原港湾空港指導官  
ほか
4. 議事要旨：  
【再評価事業審議】
  - 那覇港国際クルーズ拠点整備事業
    - ・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

委 員 長：B／Cも十分に満たしているということで、事業継続ということで判定したいと思います。よろしいでしょうか。

各 委 員：異議なし。

### ●平良港国際クルーズ拠点整備事業

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

委 員：平良港での整備水深（10m）と那覇港での整備水深（12m）に違いがあるが同じ大型クルーズ船が寄港出来るのか。

事 務 局：平良港湾の港湾計画は水深12mになっているが、本事業で寄港を想定しているクルーズ船では水深が10.5m確保出来れば寄港可能なため、整備は10.5mの水深としている。

委 員：P7の事業の必要性にて将来推計寄港回数402回とP9の事業の必要性で寄港回数98隻になっているが、その違いは何か。

事 務 局：将来の寄港回数は402回として推計しているが、1バースの実質上の受け入れ回数を250回程度として設定している。そのうち既存施設（10万トン級以下）での受入可能回数を差し引いた寄港回数（98回）を便益対象回数としている。

委 員：寄港する岸壁は、船主が選択するのか若しくは港湾管理者が決定しているのかどちらになるのですか。

事 務 局：港湾管理者にて決定している。基本はクルーズバースにて受け入れを行い出来ない場合は、貨物船バースにて受け入れ可能かどうかの検討を行う。

委 員：22万t級のクルーズ船が寄港する場合のバス、タクシーの需要はどのように考えているのか、宮古島市との連携はどのようにになっているのか。

事 務 局：宮古島市にて国、商工会、観光関係、バス・タクシー協会からなる協議会を設置し大型クルーズ船の寄港時の対応を調整している。必要なバスの手配の他、宮古島市が観光地を周遊するループバスの導入についての社会実験に取り組んでいる。

委 員：将来需要推計において沖縄県域への寄港見込みについてはわかるが、そこから各港へどのように配分しているのか、ロジックが資料では分からぬい。

事 務 局：これまでの寄港実績等を踏まえ割り振っている。

委 員：現在、宮古島市にて都市計画マスターplanの改訂を行っているので、平良港湾事務所からも宮古島市担当部署に今後のクルーズ船の寄港増加を踏まえて検討するよう意見していただきたい。

事 務 局：宮古島市にお伝え致します。

委 員：消費額の2万円について、1寄港と2寄港の消費額が変わらないのは、疑問である。マニュアルの計上方法についても1寄港と2寄港を今後検討しては如何

事 務 局：今後検討していきたい。

委 員：現在整備のバースは自然災害等の高潮を検討しているのか。

事 務 局：現在整備のバースは、前方に防波堤を整備しています。外側にも防波堤がある。

委 員：21世紀末に海水面上昇する可能性があるため、メンテナンスが可能な整備を進めていただきたい。

委 員 長：B／Cも十分に満たしているということで、事業継続ということで判定したいと思います。よろしいでしょうか。

各 委 員：異議なし。

●一般国道329号 与那原バイパス・南風原バイパス

- ・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

委 員：新規にバイパスが整備され、既設道路で新たなボトルネックが発生していないのか？

事 務 局：将来交通量推計にて大まかな検討しているが、供用後のチェックにより、当該道路の供用に起因する新たな渋滞箇所があれば確認し対応する。

委 員 長：B／Cも十分に満たしているということで、事業継続ということで判定したいと思います。よろしいでしょうか。

各 委 員：異議なし。

【事後評価事業審議】

●一般国道331号 豊見城道路・糸満道路

- ・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない」と了承された。

委 員：今後の事後評価からで結構だが、P5 事故件数について、重傷とか死亡事故の減少を追記していただきたい

事 務 局：今後取り組んでいきたい。

委 員：豊見城道路・糸満道路が開通して、潮崎地区の埋立地が活性化しているため道路として評価出来る。

委 員 長：審議の結果、一般国道331号 豊見城道路・糸満道路事業についても、委員会の総意としては、「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない」ということにしたいが如何か。

各 委 員：異議なし。

●一般国道331号 中山改良（防災事業）

- ・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない」と了承された。

委 員：防災事業の場合は、事業スタート時にB/Cを計算しているのか。

事 務 局：防災事業は、3便益（走行時間短縮便益、走行経費現象便益、交通事故減少便益）を期待する事業でないため、過去の災害状況等の必要性で判断している。

委 員 長：審議の結果、一般国道331号 中山改良事業についても、委員会の総意としては、「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない」ということにしたいが如何か。

各 委 員：異議なし。

●一般国道329号 宜野座改良（防災事業）

- ・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない」と了承された。

委 員：宜野座改良事業として、経済効果や緊急道路としての役割を果たしている

委 員 長：審議の結果、一般国道329号 宜野座改良事業についても、委員会の総意としては、「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない」ということにしたいが如何か。

各 委 員：異議なし。